

平成 30 年度第 1 回

逗子市子ども・子育て会議 会議録

平成 30 年 5 月 29 日開催

第1回逗子市子ども・子育て会議 平成30年5月29日(火) 会議録

日 時	平成30年5月29日(火) 15時00分から17時00分まで
開催場所	逗子市役所 5階 第2会議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>三谷大紀委員長(会長、座長) 横地みどり副委員長(副会長)、辻義和委員、角田朋子委員、井出久美子委員、角田進委員、小関富美江委員、中島亜紀委員、草柳ゆきゑ委員、山崎夏子委員、石井稔江委員、栗山仁委員、猿田貴美子委員、杵山英廷委員</p> <p style="text-align: right;">以上14名</p> <p>【事務局】</p> <p>山田教育部部長、高橋教育部次長、中村子育て支援担当課長、石黒青少年育成担当課長、杉山保育課長、栗飯原保育課副主幹、雲林療育教育総合センター所長、村上子育て支援課主幹、椛島主事、服部社協職員)</p>
欠席者	久保健太委員(1名)
開催形態	公開(傍聴者 なし)
議 題	<p>(1) 平成30年度の事業概要について</p> <p>(2) 平成29年度子ども・子育て支援事業計画進捗状況について</p> <p>(3) 平成29年度総合計画に係る事業の意見聴取について</p> <p>(4) 放課後児童クラブの保育料について</p> <p>(5) 保育所等の保育料について</p> <p>(6) その他</p>
議 事	別添 発言要旨のとおり
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次 第 ・会議室レイアウト ・委員名簿 ・(資料1) 平成30年度当初予算案の概要 ・(資料2) 子ども・子育て支援事業計画進捗状況 ・(資料3) 逗子市子ども・子育て支援事業計画(事業進行管理表) ・(資料4) 放課後児童クラブの保育料の見直しについて ・(資料5) 保育所保育料の見直しについて ・(資料6) 幼児教育・保育関連の本市動向等

第1回返子市子ども・子育て会議 平成30年5月29日(火) 議事録

【議題】

- (1) 平成30年度の事業概要について
- (2) 平成29年度子ども・子育て支援事業計画進捗状況について
- (3) 平成29年度総合計画に係る事業の意見聴取について
- (4) 放課後児童クラブの保育料について
- (5) 保育所等の保育料について
- (6) その他

1. 開会

委員15名中14名出席 議事録の署名人は、中島委員と栗山委員

2. 議題・報告等

【議題1】平成30年度の事業概要について

事務局より平成30年度の事業概要について説明（省略）

【議題2】平成29年度子ども・子育て支援事業計画進捗状況について

事務局より平成29年度子ども・子育て支援事業計画進捗状況について説明（省略）

（質疑応答）

【小関委員】ファミリー・サポート・センターは就学後の児童も利用できるのか。また、その件数はどのくらいか。

【事務局（村上主幹）】0歳～小学校6年生まで利用できる。利用件数は、児童の登校前・放課後の援助が790件、放課後児童クラブ関係が576件、その他が268件。

【中島委員】子育て支援センターにおける相談とは、相談の場を特に設けて行っているということか。

【事務局（村上主幹）】子どもを遊ばせながらの会話の中で相談に乗ることもあるし、きちんと時間をとって相談したいということでも受け付けている。支援センターに遊びに来るついでに気軽に相談をしてほしいと思っている。

【三谷会長】相談件数が増えているとのことだが、気軽に相談をできるようになったから件数が増えたのか、子育てに不安を感じる人が増えたから件数が増えているのか、どちらなのか。

【事務局（村上主幹）】支援センターの来所者数が増えていることに加え、相談をしやすい雰囲気になったということも要因としてあると考えている。

【猿田委員】「11. 病児保育事業・子育て援助活動事業」について、近隣市町では医療機関や保育所に委

託して実施するケースが多いかと思うが、逗子市はそうせず、ファミリー・サポート事業を活用して実施しているということか。子ども・子育て支援事業計画策定時の量の見込み数と平成 29 年度の利用実績数とがかなり乖離しているのはなぜか。

【事務局（高橋次長）】現実問題として、病児預かりのニーズはあるものの、病児を受け入れられる支援会員の数が増えず、目標値には至っていない。

【事務局（杉山課長）】平成 25 年度に就学前の保護者を対象に全世帯調査を行い、各サービスの利用希望率を算出した。その利用希望率に各年次の児童数を掛けたものが量の見込み数で、約 2,000 件のニーズがあるだろうと推計した。ニーズ調査をすると希望数は多くあがってくる反面、前日に主治医の意見書を用意しなくてはならない手間や、慣れない病院に病気の子どもを連れて行って預けることへの不安などもあり、現実として利用希望数と実際の利用数には差が出てくる。支援会員の数については平成 27 年度から毎年会員数を増やしていく計画となっているが、現実として平成 29 年度の病児の支援会員は 33 人となっている。

【辻委員】娘が保育園に通いだした 1 年目は、風邪をひくことが多く呼び出しも多くて苦勞した。ファミサポを活用したいと思う反面、発熱している子を初めての場所に預けるのは怖く、結局利用することはなかった。日頃から支援会員との信頼関係を作っておくのが一番よいとわかってはいるが、現実的には子どもが熱を出してから慌てて預け先を探すといったことになりがち。病児保育の利用を考えている人と支援会員との集団顔合わせイベントのようなものがあるとよいと思う。

【小関委員】病児・病後児だけではなく、学童保育や保育所から帰宅した後の預け先としてファミリーサポートの利用を希望する人もいる。本当はファミサポを使いたかったけれど支援会員となかなかマッチングできず、仕方なく延長保育を利用しているというケースを聞いたことがある。事業全体としてどのように支援会員を確保するかが課題。ましてや病児・病後児預かりでは支援会員も依頼会員も通常の預かりよりも相手を選ぶと思うので、支援会員の確保がより一層重要になる。

【三谷会長】実際にファミサポを利用するかどうかは親の問題だが、どういう人が預かりをしているのかがわかる顔の見える関係を作るために、利用を考えている人のための説明会を開催するなど、周知の仕方は工夫できるのではないか。

【山崎委員】支援会員・依頼会員の両方の経験がある。依頼会員として利用していた時は、いざという時のために支援会員を 2 人紹介してもらい、使い分けていた。

【三谷会長】病児・病後児を預かる支援会員の負担が懸念される。支援会員が頑張りすぎて燃え尽きてしまったらファミリーサポート事業が立ち行かなくなってしまう。通常の預かりをする会員と病児・病後児預かりをする会員とは棲み分けていくべきでは。

【草柳委員】病児・病後児預かりは、病児・病後児預かり研修を受講した支援会員でないとできない。

【事務局（村上主幹）】支援会員が必ず受講する研修会の中に、病児・病後児預かりのプログラムを組み込んでいるので、新規に支援会員になる人は自動的に病児・病後児預かりの資格を有する事になる。ただし、資格があっても実際に病児・病後児預かりをするかどうかは各自の判断となる。

【横地委員】支援会員の登録をしていますが、自分の子育てなどで忙しく、活動を休んでいる会員もいる。登録している会員全員が稼働しているわけではないが、それは仕方がない。

【角田（朋）委員】病児・病後児預かりの資格がある会員とない会員では待遇などが違うのか。

【事務局（村上主幹）】通常の預かり料金は700円/時だが、病児・病後児預かりは900円/時。

【事務局（杉山課長）】ファミリーサポートは、原則支援会員の自宅で預かる。子どもの立場とすれば慣れない家に行くよりも自宅に支援会員が来てくれた方が安心だと思うが、保護者の立場だと不在時に他人が家に入ることに抵抗を感じる人もいるだろう。今後、事業の委託を検討する際に、派遣型の病児・病後児預かりができるかどうかによっても、利用数などは変わっていくと思う。

【議題3】平成29年度総合計画に係る事業の意見聴取について

事務局より平成29年度総合計画に係る事業について説明（省略）

（質疑応答）

【横地委員】ポータルサイトの閲覧数や体験学習施設の利用者数など、評価の根拠が数字で表されているのは、見やすい反面、事業の具体的な内容がわかりづらい。例えば「ファミリーサポートセンター運営事業」では、「予定通り進捗・順調である」となっているが、先ほどの議題2で、病児・病後児預かりの件数が伸びない背景として、利用する際の心理的ハードルが高いことや、支援会員の負担感などの意見が出ていた。そういった意見を「事業の反省点・問題点」に記載してもよいのではないかと。また、「妊産婦・乳児訪問事業」についても、最近の母子の状況について訪問者が感じていることを、今後の参考にするためにも記載しておいたほうがよいと思う。「何でも「予定通り進捗・順調である」で済ませずに、委員から出た意見はきちんと反映していくことが望ましい。

【事務局（村上主幹）】評価はこのままでよろしいか。

【角田（朋）委員】すべて「順調である」という評価だが、本当にそんなに完璧に実施されているのか。

【井出委員】「事業の反省点・問題点」がすべて空欄だが、反省点や問題点が何もないということはないはず。少しでもいいので記載してほしい。

【三谷会長】反省点や問題点があるのではと感じている事業は具体的にどれか。

【角田（朋）委員】「子育てネットワーク構築事業」について、市民からのポータルサイトに対する要望などがあれば「事業の反省点・問題点」に加えてほしい。

【三谷会長】「体験学習施設講座等事業」は「事業の反省点・問題点」に「居場所のない児童青少年へのきめ細かい対応を行う必要がある」と記載があるが、このままでよろしいか。

【横地委員】利用者数の達成率が目標値の約60パーセントとあるが、どの数字に対して60パーセントなのか。

【事務局（村上主幹）】平成30年度の目標としている利用者数45,000人に対する達成率が約60パーセントということ。

【横地委員】「達成率約60パーセント」というのは実際の現場としてはどのような感覚なのか。利用者

で賑わっているという印象なのか、そうでないのか。受講者数についても、達成するのがどのくらい大変だったのか、講座に対して十分な受講者が集まっているのかといったことをもっと加えてもいいのではないか。

【事務局（石黒担当課長）】：「審議会・懇話会等の意見」欄に事務局で集約した意見を記載するということではいかがか。

【三谷会長】これまで数字しか記載していなかった「実施結果」の欄に、考察として事業の実情や現場の雰囲気がわかるような記載を加えるということではどうか。そのほか、子ども・子育て会議内で議論された内容は「審議会・懇話会等の意見」に加えるということではよろしいか。

【小関委員】「体験学習施設講座等事業」の「実行委員会形式による体験学習施設まつり等の実施」について、中高生が実行委員となってすすめていくということが当初から決まっていたかと記憶しているが、そういった中高生の参画についての記載がない。

【事務局（石黒担当課長）】：学生委員会という体験学習施設の利用ルールなどを検討する委員会の委員が、そのまま体験学習施設まつりの実行委員となっている。そのほか青少年指導員にも加わってもらいながら体験学習施設まつりを実施してきた。ご意見を受け、「実施結果」に「中高生の参画を得て体験学習施設まつりを開催した」との記載を加えようと思う。

【三谷会長】中高生の参画は今後も持続可能な方法になっているか、中高生たちが前向きな姿勢で取り組んでいるかということについても記載いただきたい。

【小関委員】与えられた仕事をただやらされるのではなく、中高生が主体的に運営に関わることを目指していたはず。

【三谷会長】学生委員会が、与えられた仕事をただやるだけの団体となってしまっているのか、それとも子どもたち自身が意志を持って取り組んでいるのか、実情を知りたい。

【事務局（石黒担当課長）】実行委員会のメンバーは中学1年生から高校3年生までいる。受験期になると、いままで積極的に活動に参加してきた子ども少し活動から遠ざかるようになる。1・2年生は、その時々々の個々の事情やクラブ活動などもあり、活動状況はまちまち。ただどの子どもも意志をもって実行委員会に入ってきているので、何かしらの役割は担ってほしいし、意見も出してほしいと事務局から実行委員会に伝えている。子どもたちもできる限り時間を割いてくれ、実行委員会の活動や当日の運営に関わってくれている。

【三谷会長】次の「子育て支援センター運営事業」はいかがか。

【山崎委員】子育て支援センターはよく利用している。出産した時期が祖母の介護をしていた時期と重なっており、そのことをふとした際に話したら、次回には職員同士できちんと情報が共有されていた。職員がよく訓練されていると感じる。

【三谷会長】支援されている側の手応えと、支援センターを訪れる親たちの状況についてわかるような記載があるとよい。

【角田（朋）委員】昨年、小坪巡回相談の利用者数が少ないことや駐車場の件が問題になっていたかと

思うが、今回の進行管理表にはその件についてのコメントがなく、その後どうなったか不明。去年より利用者数は増えたのか、利用者を増やすためにどのような努力をしたのかわからない。

【事務局（村上主幹）】資料2の「3. 地域子育て支援拠点事業」に平成27年度からの利用者数を記載している。小坪は今年また少し減ってしまっている。

【三谷会長】駐車場の問題は解決したのか。

【横地委員】2台分のスペースしかないため、事前に駐車場の空きを電話で確認し、スペースを確保してから行かなければならない。

【角田（進）委員】現在の利用者数なら2台分で十分ではないか。

【横地委員】車で行けないため利用をあきらめてしまっている人もかなりいると思う。

【草柳委員】小坪の土地柄として、人々がとてもあたたかく、祖父母と同居の世帯も多い印象。利用者が増えないのは駐車場だけが問題ではなく、周りに相談できる人がたくさんいるのでわざわざ相談に来ないというような理由もあるのではないか。

【角田（進）委員】市は相談事業として開催しているが、利用者はほっとスペースに遊びにくるつもりで訪れているのではないか。市が相談件数としてカウントした人の中には、単にほっとスペースに遊びに来て少し話をしていた人も含まれると思う。

【角田（朋）委員】利用者は相談事業として開催されていることに気づいていないと思う。ほっとスペースに遊びに行った時も職員と話をする。

【三谷会長】どういった相談が増えているのか、場所の雰囲気はどうかといった記載を追加してほしい。

【角田（朋）委員】相談を受けつけているということをもっとアピールしてはどうか。

【三谷会長】続いて「妊産婦・乳児訪問事業」については、先ほど横地委員からいただいたご意見のとおりでよろしいか。では次の「子ども相談室運営事業」はいかがか。

【栗山委員】鎌倉三浦地域児童相談所は年間350件の虐待相談を受けており、そのうち逗子市は65件。進行管理表に62件となっているのは、市が受けた分と鎌倉三浦地域児童相談所が受けた分の差。逗子の虐待件数はここ数年60件前後で推移しており、これは逗子市職員の努力によるものである。ほぼすべてのケースにおいて、警察・児童相談所との同行訪問を検討しており、実際に同行訪問を実施したのは23件。子ども相談室が児童相談所と連携してケースにあたれているのは大きな強みなので、ぜひ評価に加えていただきたい。虐待や療育は社会的な背景が関係していることも多く、件数の増減についてはまったく予想がつかない。昨年度の神奈川県全体の虐待件数は4,000件を超えており、平成22年の件数1,853件と比較して莫大な増加をしている中、逗子市は毎年一定の件数を保っており、市として力を入れている事業なのは間違いない。神奈川県内に5つ児童相談所があるが、同行訪問の件数を評価に加えているのは鎌倉三浦地域児童相談所だけ。虐待が起こる背景の分析も大事だが、職員の頑張りについてもぜひ記載してほしい。

【三谷会長】毎年約60件という数字をどう評価するか。これは今後の事業の課題にもつながる話。職員の努力によってこの件数に抑えられていると考えられる反面、きちんと虐待ケースを拾い切れていない

のではという疑問もある。同行訪問を実施しているなど強みの部分は実施結果に記載できるのではと思うが、いかがか。次に「ファミリーサポートセンター運営事業」だが、こちらはすでに意見が議論の中で出てきているので、それを「事業の反省点・問題点」に入れるか「審議会・懇話会等の意見」とするかは事務局に一任することとしたい。「体験学習施設講座等事業」についても同様。最後に評価についてだが、今回議論した内容を追記したうえで、評価としては「順調である」ということでよろしいか。

(一同承認)

【議題4】放課後児童クラブの保育料について

事務局より放課後児童クラブの保育料について説明（省略）

(質疑応答)

【草柳委員】利用者から、現状の利用料について不満などは出ているのか。

【事務局（杉山課長）】利用者全員に意見聴取したわけではないので個人の意見ということになるが、妥当と考える人もいれば高いという人もいる。ただ、高すぎるという意見が多く出ているということはない。

【横地委員】高いと感じる人はもう利用をやめてしまっているのでは。

【三谷会長】増額は現在の放課後児童クラブの質を維持するためということによいか。

【事務局（杉山課長）】維持しつつ、さらに向上をめざしている。今回の提案の中にも、学校休業日の朝7時30分から8時までを延長保育として実施することを盛り込んでいる。

【三谷会長】その他新しい提案としては、第2階層までの減額か。

【小関委員】近隣市の例を挙げると、横浜市の平均学童保育保育料が18,000円台。横須賀市は17,000円台。鎌倉市は5,000～6,000円の保育料プラスおやつ代が約8,000円。葉山町は無料だがおやつ持参で時間もかなり短い。逗子はふれあいスクールもあるので、子どもを自由に遊ばせたい人はふれあいスクールを選ぶし、安心安全を求める人は学童保育を選ぶ。保育園の保育料を考えたらむしろ安いという声もある。今回、応能負担の考えを取り入れているので、階層によっては負担が減る。神奈川県内でこのような対応をしているところはなかなかなく、生活保護家庭でもかなり高額な保育料を払わなくてはいけないところもある。さらに要望するなら、きょうだい減免をぜひ実施してほしいということ。また、高学年割引についても残しておいてほしい。ひとり親世帯の減免については、所得に応じた方式となるなら不要なのではないか。

【三谷会長】入所審査の段階でひとり親の優遇をするのは必要かもしれないが、ひとり親であっても所得が高いのであれば、保育料の優遇はいらないということか。

【草柳委員】所得を加味した保育料の設定は、毎日の生活を考えたら非常に重要。年収に応じた配慮が受けられるということは子育てしやすいまちにもつながっていくのではないか。

【三谷会長】具体的に減免率はどのくらいがよいか、保育課から提案はあるか。

【事務局（杉山課長）】減免率は高い方が望ましいというのが一般的な回答だとは思う。今回の提案通り

にすると、最も保育料が高い層で 12,000 円が 18,000 円になり、単年度で 6,000 円値上げになる。また、ひとり親世帯では、現在 9,000 円が減免をなくすと 18,000 円と倍になる。この大幅な上がりをどう判断するかについてぜひご意見をいただきたい。例えば、急に 9,000 円上がるのは大変なのであれば、複数年で段階的に上げるというやり方もできる。

【三谷会長】それでは、まず基本的な考え方となる所得に応じた保育料負担については承認ということではよろしいか。そのうえで、ひとり親世帯の減免をどう考えるか。

【草柳委員】「子育てしやすいまち」を標榜するのであれば、減免率はできるだけ高い方がよい。

【三谷会長】大事にしたいのは保育の質。安定的な運営・安心安全な保育をどう確保するか。

【草柳委員】保育料を上げれば安心・安全が確保できるとは限らない。

【辻委員】きょうだい減免と高学年割引は併用して使えるのか。

【事務局（杉山課長）】きょうだい減免は 1～3 年生の子が複数いる場合、12,000 円を 10,000 円にするもの。そのため、高学年の場合はきょうだい減免は適用されない。

【横地委員】12,000 円→14,000 円の 2,000 円アップはなんとか許容できても、4,000 円、6,000 円となると、いかに収入が高くても影響は大きいと思う。段階的な緩和措置があってもいいのではないか。

【三谷会長】保育の質の高さを鑑みれば、他市の保育料と比較しても、並外れて高いという値段ではない。きょうだい減免については 25%、高学年割引は 2,000 円減。ひとり親世帯の減免は、所得に応じた方式となるなら本不要ではないかという意見があることから 2,000 円減。また値上げについては 2 か年で段階的に行うということではよいのか。

【小関委員】きょうだい減免について、他市では 3 子目以降は無料としているところもある。ぜひ検討願いたい。

【横地委員】保育料は段階的に上げていき、逆に減免は段階的に率を上げていくことでバランスをとってはどうか。

【事務局（杉山課長）】放課後児童クラブの話題に関連して、放課後児童クラブ利用選考基準の導入の延期についてご説明する。今年度、すでに逗子小学校区で緊急対策として「夕方型」の導入をしているが、基準設定の熟度を上げるため、また「夕方型」に一定の枠組みを設定するため、利用選考基準の導入を 1 年延期したい。

【議題 5】放課後児童クラブの利用調整基準について

事務局より放課後児童クラブの利用調整基準について説明（省略）

（質疑応答）

【石井委員】来年 10 月から始まる幼児教育無償化の流れの中での位置づけはどうなるのか聞いたかったが、詳細については次回会議となりそうか。改訂の理由として「幼児教育・保育の質の向上を更に進めていくための財源の確保」としているが、質の向上とは具体的にどのようなことを想定しているのか。

【事務局（杉山課長）】具体的なことはまだ決まっていない。保育料を上げるにあたり、単に待機児童への対策だけではなく、全体的な保育の質の向上も目指すという姿勢で取り組むということで現時点ではご理解いただきたい。

【石井委員】幼児教育無償化にあたり、国の方針に保育士の処遇改善なども盛り込まれているようだったので、逗子ではどのように考えているのかを聞きたかった。

【事務局（杉山課長）】公定価格が上がったことにより市の負担は増えているが、保育の質の向上は国策でもあるので、保育の質の向上は要素として加えていく方針でいる。

【三谷会長】「保育所等の保育料について」の審議は今回の会議で最後か。

【事務局（杉山課長）】今回の会議でいただいたご意見をふまえ、次回会議でも検討する。

【横地委員】10%の引き上げはやはり負担感が大きいような気がする。例えば単年度で5,000円を超える値上げになってしまう層は8%程度の引き上げにとどめる、または全階層の引き上げ率を8%程度に抑えるといった方法もあるのか。また、3～5歳の扱いについてだが、年齢によって上げない層があるというのは不公平感があると思うので、期限付きだとしても全年齢一律に値上げのほうがよいと思う。

【石井委員】どうしても10月までに値上げをしなければやっていけないようなひっ迫した状況なのか。

【事務局（杉山課長）】今後のことを考えると値上げは必要だが、半年間の扱いをどうするかは政治的な判断もありうる。

【角田（進）委員】無償化の時期についてはまだ国の正式な通知があったわけではないので、あまりあてにしすぎず、現時点での状況で判断して決めるしかないのではないかと。

【三谷会長】では、3～5歳についても一律値上げということが会の総意ということでよろしいか。次に年度で5,000円を超える値上げになってしまう層への配慮をどうするかについてはいかがか。

【横地委員】一度に値上げをするのではなく、段階的に値上げをしていくことにし、無償化の時期が明確になるのを待ちつつ方向性を定めていくのはどうか。

【事務局（杉山課長）】財源の確保のほか、国の徴収基準に近づけていくのも今回の値上げの目的のひとつ。国の徴収基準が下がれば、もしかしたら値上げの必要もなくなるかもしれない。

【三谷会長】前回見直しの際の子ども・子育て会議の審議では、「単年度の上がり幅は月5,000円以内」としていたということなので、今回もそれをふまえたうえで、月5,000円以上の値上げとなる層は10%以下の値上げにとどめるということではどうか。

【事務局（杉山課長）】単年度の引き上げ上限は5,000円、それ以上の値上げになる場合は段階的に値上げしていくというやり方は可能。

【三谷会長】上限は5,000円というのは当時の会議で決めた事か。

【事務局（杉山課長）】当時の子ども・子育て会議委員の生活感覚や収入の状況などからそのような意見となった。

【小関委員】高所得の階層でも5,000円以上の値上げは負担感が大きいという話は前回の会議でも出ていたのか。公平性を考えるのなら一律同じ割合の値上げのほうが不公平感がないのではないかと。

【三谷会長】全階層同じ割合で値上げをするが、単年度 5,000 円以上の値上げとなる場合は段階的な引き上げとするという案ですね。最高階層にあてはめた場合、単年度の引き上げ上限は 6.5%。つまり初年度は全階層について 6.5%の引き上げを行い、その後最終的に 10%になるまで段階的に引き上げを行うということではいかがか。(一同承認)

3. 閉会

以上により本日の議事を終了し、第 1 回逗子市子ども・子育て会議を閉会し、散会した。

なお、議事の経過並びに結果を明確にするためこの会議録を作成し、会長及議事録署名人は下記に署名押印する。

会長 印

議事録署名人 印

議事録署名人 印